



石巻市の概要

Outline of Ishinomaki City

平成17年4月1日、石巻市・河北町・雄勝町・河南町・桃生町・北上町・牡鹿町の1市6町が合併し、現在の石巻市が誕生しました。

石巻市は、宮城県の東部、北緯38度、東経141度付近にあります。人口は約16万7千人、面積555平方キロメートルの県下第二の都市です。

岩手県から流れる北上川が本市に入ったところで、二手にわかれ、それぞれ追波湾と仙台湾に注いでいます。北上川流域は、肥沃な平野となっていて、仙台湾側の河口周辺が最大の市街地となっています。市の東部と牡鹿半島は、北上山地の最南端に位置し、風光明媚なりアス式海岸となっています。

石巻市は、古くから江戸廻米などの海運・舟運基地として大変な賑わいを見せ、現在の石巻市発展の礎となりました。新鮮な魚介類が水揚げされ、毎日新鮮な海の幸を堪能できます。また、農業地域も広

大であることから、「食材王国・石巻」として市外からも多くの観光客が訪れています。このように本市は、農林・水産・商工業のバランスの取れた都市としてさらなる発展を遂げています。

現在、中心市街地活性化の手段として、マンガを活かした街づくりが進められており、石ノ森萬画館やマンガロードのモニュメントなどで観光客に楽しんでいただいています。もう一つのスポット「サン・ファン館」は、伊達政宗の命を受けローマへ向けて出帆した木造帆船「サン・ファン・パウティスタ」を復元し、展示しています。17世紀初めの航海の様子や帆船の仕組みをわかりやすく学べる施設として人気を博しています。

太平洋に突き出した牡鹿半島の先端は、日本有数の捕鯨基地として栄え、現在も調査捕鯨船による鯨が水揚げされます。ここには、鯨の生態を楽しく学

べる「おしかホエールランド」があり、鯨の骨格標本やかつて南氷洋で活躍した捕鯨船の展示もされています。また、半島のすぐ目の前に、今も信仰を集める霊島「金華山」があり霊験あらたかな黄金山神社や千畳敷、千人沢など自然が作り出した奇岩が点在し、散策すると野生の鹿や猿とあうことができます。

雄勝産の良質な石から作りだされる硯は、日本の生産量を誇り、雄勝石から作られるスレートは建築物にも用いられています。その硯の製作体験やギャラリーなど雄勝石の魅力を伝える施設が「雄勝硯伝統産業会館」で、実用的でインテリアとしても評価の高い工芸品の魅力にも触れることができます。